



2016年3月9日放送

頻用処方解説 清心蓮子飲

福岡大学病院 東洋医学診療部 久保田 正樹

清心蓮子飲の出典

清心蓮子飲は12世紀初頭、宋代に編纂された『和剂局方』(1107-1110)に収載されています。「心中煩躁し、思慮憂愁抑鬱し、小便赤濁するか或いは沙漠あり。夜夢み、遺精あり。遺癰渋痛し、小便赤如、或は酒色度を過ぎ、上盛下虚し、心火上炎し、肺金、尅を受く。故に口苦咽乾し、漸く消渴と成り、四肢倦怠し、男子五淋となり、婦人帯下、赤白となり、五心煩熱するを治す。此の薬は温平にして、心を清め、神を養い精を秘し、虚を補い、脾腎を滋潤し気血を調順す。」とあります。

解説すると、(清心蓮子飲は)心がもだえて、憂いに沈み抑鬱して、小便が赤く濁るか、或いは尿中に砂のような混濁を認め、夜に夢をみて精液を漏らし、小便が出渋り疼痛がしたり、小便が赤くなる。酒と色に耽りすぎると、上焦(横隔膜より上部)が盛んで、下焦(臍から下)が虚す状態になり、心の火が上にのぼることで、五行の相克の関係から肺の金が抑えられる。口が苦くなり、咽が渴き、だんだんと糖尿病のような口渇が出現し、四肢がだるく、男性では五淋(砂石淋、血淋、冷淋、熱淋、膏淋などの尿症状)を呈し、婦人では赤や白の帯下を認め、両側の手のひら、足の裏、胸部に煩わしい熱感を感じるようになった人を治療する。この薬は温平で心の熱をさまし、精神を療養し、精を秘し(秘し=隠す、精が漏れ出ないようにする)、虚を補い(気虚、脾虚等を補う)、脾腎を潤し、気血の流れをよくする、という意味になります。

古医書における記載

浅田宗伯(1815-1894)の『勿誤薬室方函口訣』によれば、「この方は上焦の虚火充りて下元これがために守を失し、気淋白濁などの症をなす者を治す。また遺精の症、桂枝加竜

蠮の類を用いて効なき者は上盛下虚に属す。この方に宜し、もし心火熾にして妄夢失精する者は竜胆瀉肝湯に宜し。一体この方は脾胃を調和するを主とす。故に淋疾下疳による者にあらず。又後世の五淋湯、八正散のゆくところに比すれば虚候の者に用う。」

解説すると、清心蓮子飲は上半身に虚熱がたかぶったために下半身の守りがおろそかになり、小便が白く濁ったりする者を治す。夢で精液を漏らす人で桂枝加竜骨牡蛎湯の効果がない者は、上半身が盛んで下半身が虚している。そういう者にこの薬は効果がある。もし心に火熾して（火熾は火起こしの意味、熱がある状態）、妄りな夢を見て精を漏らす者は竜胆瀉肝湯がよい。清心蓮子飲は脾胃を調和するのが目的で、淋疾や下疳による者ではない（淋病や性感染症などを治療する目的ではない）。また、後世方の五淋湯や八正散に比べればより虚証の人に清心蓮子飲を使用する、となります。この五淋湯、八正散は共に『和劑局方』が出典で、曲直瀬道三（1507-1594）の『衆方規矩』では、淋病門に清心蓮子飲と共に収載されており、尿路に熱をもち、尿が出渋る人に使用する薬です。

近代の使用目標

大塚敬節（1900-1980）の『症候による漢方治療の実際』（南山堂）によれば、「この方は四君子湯をもとにして組み立てられた方剤。平素より胃腸が弱く、地黄剤を用いると食欲がなくなったり、大便がゆるんだりして、胃腸にさわるものに用いる。目標：尿の淋瀝でまだ尿が出そうでいて出ない気持ちの悪いものに効く。八味地黄丸証のようで胃腸虚弱で八味地黄丸が使えないものに用いる」とあります。

大塚恭男（1930-2009）の「重要処方解説」には、「インシュリン使用中の少し神経質さがある糖尿病患者に対して清心蓮子飲を処方したところ、排尿障害の改善と低血糖を認めた経験から、『万病回春』において消渴に効果あるとの記載を思い出して、糖尿病患者さんに清心蓮子飲を積極的に使用するようになり、Ⅱ型糖尿病患者の全身状態の改善とインシュリン使用量の減少を経験した。」との記述があります。

この追試を行った我妻恵らは、Ⅱ型糖尿病 18 例を 12 例の清心蓮子飲投与群と 6 例の非投与群に分けて、耐糖能改善度、全般有効度を評価して、投与群は非投与群に比較して有意に耐糖能の改善がみられたと報告しています（「清心蓮子飲による糖尿病治療の長期経過」日本東洋医学雑誌.1994,45(3),p.551-556.）。

北里研究所の堀川朋恵らは、清心蓮子飲により糖尿病治療薬を中止できた 2 症例を報告しています。1 例目は 76 歳、女性。ミチグリニドを使用中に八味地黄丸料加味で開始し、清心蓮子飲に変更した後に HbA1c の低下を認めた。最終的にはピオグリダゾン中止後も HbA1c は正常上限を維持している。2 例目の 51 歳、男性は、他院で糖尿病の診断を受けインスリン治療が開始されていたが、治療開始から 3 ヶ月後に清心蓮子飲を開始し、3 ヶ月後にはインスリンを中止しても血糖値が良好のままだったと報告しています（「清心蓮子飲により糖尿病治療薬を中止できた 2 症例」漢方の臨床.2012,59(2), p.349-354.）。

構成生薬にみる薬能

清心蓮子飲の構成生薬は蓮肉、麦門冬、茯苓、車前子、黄芩、人参、黄耆、地骨皮、甘

草の 9 味からなり、蓮肉はスイレン科の蓮の果実を乾燥させたもので、滋養、強壯、鎮静作用があり、熱を冷ます効果があります。麦門冬はユリ科のジャノヒゲの塊根で、鎮咳去痰、消炎、解熱、滋養強壯作用があります。黄芩はシソ科コガネバナの根茎で、鎮静、消炎作用があり、内臓の熱を冷ます効果があります。

人参、甘草、茯苓は四君子湯の構成生薬であり、脾胃を補い、気をふやす効果があります。

人参には体を潤す効果もあり、茯苓には精神を安定させる安神と利尿効果もあります。車前子はオオバコ科のオオバコの種子で利尿、鎮咳の作用があり、腎と肺に効果を示します。地骨皮はナス科苦杞の根茎で、味は甘く脾に作用して滋養強壯と滋潤に効果があります。黄耆はマメ科キバナオウギの根で、虚を補い、汗を止めて、利尿作用があるとされます。

蓮肉、麦門冬、黄芩で上半身に上がった体の熱を冷まし、蓮肉、黄芩、茯苓で精神を落ち着かせます。人参、黄耆、甘草、麦門冬、地骨皮は抗疲労、気虚、脾虚を改善して、体の水分を増やして滋潤させることで消渴が改善すると考えられます。茯苓、車前子の利尿効果で尿量を増やし、黄芩で尿路の炎症を抑えて排尿しやすくします。

清心蓮子飲の副作用として重要なものには、肝機能障害、間質性肺炎の報告があります。小柴胡湯などに同様の報告がありますが、同じ構成生薬の黄芩が原因である可能性があります。

鑑別処方

清心蓮子飲のエキス剤における効能効果は、全身倦怠感があり、口や舌が乾き、尿が出しづるものの次の諸症：残尿感、頻尿、排尿痛、となっています。

排尿障害に対する鑑別処方として、まず**八味地黄丸**があります。これは地黄を含みますので、胃腸が丈夫で、小腹不仁、夜間頻尿の所見があり下半身が冷えることで起こる排尿障害や下肢痛や腰痛も目標にします。

六味丸は八味地黄丸から体を温める効果のある桂枝、附子を除いたものです。腎陰が虚しているために体の水が減少しており、咽の渇きや皮膚の乾燥や四肢の火照りを認めます。八味地黄丸証で冷えが無い人で、尿量の減少、頻尿を目標に使用します。

猪苓湯は下半身に熱があり、口渇して、水を飲むが尿量が減少している人に用います。五苓散から桂枝、朮を去り、止血作用がある阿膠と、口渇を改善して消炎利尿させる滑石が加わったものです。五苓散同様に利尿剤として使用します。上焦（顔～横隔膜上部）に熱があるものには五苓散、下焦（臍から下部）に熱があるものには猪苓湯と伝えられています。尿路感染症に使用されますが、抗炎症作用は強くはありません。

五淋散は下半身に熱があり、尿が出渋る人に使用します。清心蓮子飲に比べると人参、黄耆など補気の効能がある生薬がなく、清熱効果のある山梔子が加わり、沢瀉、滑石、木通などの利尿作用と、当帰、地黄、芍薬で補血作用を強めた薬です。地黄が含まれており、八味地黄丸と同様に胃腸が丈夫な人向けの処方になります。

竜胆瀉肝湯は五淋散から芍薬、茯苓、滑石を除き、龍胆を加えたもので、五淋散よりも体力があるものに用いるとされます。下焦の湿熱に有効とされ、骨盤腔内や外陰部の

炎症にも使用されます。

自験例

症例は60代、女性。1年前より排尿痛があり、尿が溜まると下腹部痛が出現しました。泌尿器科を受診し、間質性膀胱炎と診断され、膀胱水圧拡張術やレーザー焼灼術を受けました。治療直後は歩行が困難なほどの下腹部痛が改善したが、1ヵ月後に再発し、発症から1年後に当院受診。

腎機能は正常。検尿は尿潜血、蛋白共に陰性。自覚症状は、足が冷える、口渇はないが、尿量が多いほど下腹痛が軽いので、尿量を増やす目的で水分を2L/日摂る。食欲は正常。尿は10~14回/日、夜間尿3、4回。便は普通便。月経痛はあったが、産後に消失。2人の子供を持つが、産後に子宮脱、膀胱脱の症状はなし。夜間頻尿のために熟眠ができない。自分では少し神経質な方だと感じるとのこと。

他覚所見は顔に火照りはないが、手が温かく、足の冷えを認める。脈候は沈でやや弱、舌候は軽度暗赤色で、腫大や歯痕なく、乾燥した厚めの白苔を認めました。腹候は腹力中等度、振水音なし、臍傍圧痛なし、小腹不仁はごく軽度認め、下腹部の冷感がありました。

冷えの自覚と夜間頻尿と小腹不仁から腎虚の所見とみなし、八味地黄丸エキスを開始しました。2週間後、足の冷えは改善したが、夜間尿回数は変わらず。睡眠も不良で八味地黄丸に修治ブシ末1gを併用しました。

初診から4週間後、尿が溜まると下腹痛出現し、夜間尿は3、4回と変化なし。元々心配性で考えごとがあると眠れないタイプと答えたため、清心蓮子飲エキスに変更しました。初診から7週間後 夜間尿は1、2回に改善、排尿時の痛みがほとんどなくなった。現在、継続加療中。以上、清心蓮子飲の原典、近代における使用目標や構成生薬、鑑別処方についてお話し致しました。